

山南中学校の歴史を語り継ごう

10月20日(火)

明日は丹波市駅伝競走大会です。無観客で行います。そのこともあり明後日からの修学旅行の事前指導を本日の午後行いました。

本校には若い先生が非常に多く活気があります。しかし、1999年から始まった本校の中核をなしている平和推進委員会ができた経緯や「永久(とわ)の木」について詳しく知っている教員も少なくなってきました。歴史を伝えるのが私たち年配の教師の役目と思い、転勤されてきたら話をしています。

松田忠晴さんとの出会い

1996年、3年生がヒロシマとナガサキの両方に修学旅行に行くことになり、丸木俊さん位里さんという原爆を描き続けた美術家の絵を元にした版画を作成しました。そして、この絵を佐々木貞子さんをモデルにした「原爆の子の像」にささげました。ヒロシマの平和公園の近くに住んでおられる松田忠晴さんは、この版画に感動され、この版画を本川小学校の資料館に保存できるようにお願いしてみましようとお手紙を下さいました。このときから松田さんと山南中学校との交流が始まりました。松田さんはご自身も戦争で足を負傷され、ヒロシマの原爆で家族をなくされています。そして、子どもたちに戦争の恐ろしさと平和の大切さを訴える活動をずっと続けてこられた方です。その後も、山南中に来て、お話をしてくださったり、お手紙を下さったり、ヒロシマの小学生に命の大切さと物を大切にすることを訴えてこられました。

平和推進委員会のはじまり

1999年、松田さんが本校生徒を8月の平和祈念式典に招待してくださり、当時2年生だった5人がホームステイをしました。そしてこれを機会に「山南中学校平和推進委員会」ができました。

平和推進委員会というのは、山南中学校の平和の取り組みをすすめるための、生徒の自主的な組織です。生徒会の組織ではなく、募集して集まった生徒が自分たちで活動内容を考え、取り組みをしている組織です。平和の活動は、全校生徒全員で行い、先生達も協力します。平和推進委員会はその先頭に立つとともに、みんなが平和のことを考えるために縁の下の力持ちとして活動しています。

校内には先輩がナガサキから持ち帰った「被爆クスノキ」があります。これは長崎の被爆者末永浩さんが平和の願いを全国の子どもたちに伝えたいと贈ってくださったもので、山南中学校では、この木を「永遠(とわ)の木」と名付け、大切に育てています。山南中学校の平和の歴史と願いを後輩に伝えていきたいと、大切に育てられています。

